2010　福祉フェスティバル協賛

ミニ・コンサート開催！

出演：癒し系音楽の第一人者　奥野勝利（おくのまさとし）
日時：11月6日（土）　①12：30-13：00　②14：30-15：30
出演：ハワイアンヴォーカルユニット
日時：11月7日（日）　①14：30-15：00
会場：厚木市福祉会館1F特設ステージ
担当：厚木中ロータリークラブ奉仕プロジェクト

『障害者を理解するためのガイドブック』出版記念

命の歌、魂の歌を歌い伝えるフィーリング・ミュージシャンMASA（奥野勝利）
□　国内外で活躍する癒しの音楽第一人者MASAを招聘し、弾き語りで癒してくれます。
幼いころシンガポールに移住し、そしてアメリカで成長したMASA
幼き頃、おばあちゃんから聞いてた祖国日本と現実のギャップ！
長い海外生活で心身を困憊させ自らも「うつ」と戦うMASA
御世辞でもない慰めでもない病を乗り越えたMASAのことばで語り
歌い伝える美しい日本『ふるさと』
日本の温もりそして自ら語り伝える心のメッセージ・ソング『そのままでいい』
送り出してくれた母への思い、突然思いもよらない震災で最愛の息子を亡くされた母親の思いを歌った『親愛なる母上様』
MASAの癒しの歌声はきっと頑張りすぎてる御母さん、妻たちへのエールになることでしょう！　多くの会員ご夫婦に足を運んで頂き、障害者の理解ご関心を望みます！　□

☆♪☆

21歳でこの世を去った青年が母に書いた一通の手紙を歌にした曲
「親愛なる母上様」奥野勝利　おくのまさとし

＊2008年10月14日 放映【日本テレビ】より

奥野勝利

幼少からピアノを学び、シンガポールに渡った後毎日楽譜もなくピアノを弾いているうちに即興と作曲を独学。多民族、多文化国家であるシンガポールで様々な音楽や人々と触れ合いながら育ち、アメリカで音楽の大学院を卒業する。日本に帰国した際に、自主制作したCD500枚を旅をしながら完売。思い出の日本と現在の日本とのギャップを強く感じ、懐かしい日本、感情、などを歌にしている。

「親愛なる母上様」とは…

この曲は21歳と言う若さで、この世を去った1人の青年が、亡くなる前に母に書いた1通の手紙を歌にした曲である。
広島県に住む加藤りつこさんと1人息子の貴光さん。お母さんがいないとすぐ泣きだしてしまうほどの甘えん坊。
そんな貴光さんをりつこさんは目に入れても痛くないほど可愛がっていた。
1993年、貴光さんは名門神戸大学に合格し、りつこさんの元を離れて1人神戸へ旅立つことに。
そして旅立ちの日、りつこさんのポケットに入っていたものは手紙。そこには、今まで恥ずかしくて面と向かって言えなかった母りつこさんに対する感謝の思いが込められていた。
しかし運命のあの日、阪神淡路大震災により貴光さんの住んでいたマンションは全壊。貴光さんはコンクリートの下敷きになり、あまりにも短い生涯を終えた。

あれから12年、インターネットの震災追悼サイトで、その手紙を読み心うたれた奥野勝利さんは、貴光さんの手紙にメロディーをつけ1曲の歌にした。